

北 の ふ れ 愛

夕張シューパロダム

16年前本誌第580号で「ダムに沈む町 大夕張」という記事を投稿したことがあります。

北海道炭鉱汽船とともに炭都夕張を支えた三菱大夕張炭鉱の城下町、最盛期には2万人を越す人達が住んでいた「大夕張」と呼ばれた町が、既設の大夕張ダムの下流150mに建設される新しいダムのため水没するという内容でした。この3月にその新しいダム「夕張シューパロダム」の本体工事が終わり、それが現実のものとなりました。

ダムの高さは既設の約1.6倍、湛水面積1400ha、ダム湖水としては雨竜第一ダムに次いで日本2番目、総貯水容量も第4位、札幌ドーム270杯分の貯水量になるそうです。湛水にともない大夕張ダムはもちろん道路やトンネル、橋などの多くの建造物が湖底に沈みます。その中の一つに、鋼材を四角錐に組み合わせその頂点を繋ぐという橋梁構造をもつ「旧大夕張森林鉄道」の三弦トラスト橋があります。世界的にもあまり例を見ない建造物とのこと。

一時解体も検討されましたが、そのままの形で湖底に残ることになりました。本号が発行される頃には、全国的にも屈指のダム湖が現れていることでしょう。
(木村 悟 記)

